

豊かな表現力を身につける

# プレゼンテーション技法

指導のてびき

ウイネット

## <はじめに>

日本人はディベートや交渉事が不得手だ、ということがよくいわれます。島国という立地条件と、そこから育まれた気質にもよるのですが、国際社会の発展により、今後、異なる文化・歴史を背景にもつさまざまな価値観の人々と仕事をする、交渉する、という場面がますます多くなっていくものと思われます。また、同じ日本人同士でさえ、環境や生い立ち、属する会社・集団などにより、その価値観は千差万別です。

そうした中で、周囲とうまくコミュニケーションをとりながら自分の意見を述べ、最終的に自分の意図した通りに事態をもっていくには、相当の力量が必要とされます。相手の状況を正しく理解し、その状況を自分なりに解釈して自らの意見に反映させ、さらにそれを相手に対して的確に伝達していく技術が必要とされるからです。

つまり、ただ単に意見を言うだけでは不十分であり、状況・コンテキストに応じて言葉や対応を使い分けていく対応力が重要だといえます。

本書では、そうした能力を養うために、集団討論、ディベート、詩の朗読、プレゼンテーションなどさまざまな演習を収録してあります。学習時間や学生の進度に合わせて、必要な演習を取捨選択して授業に盛り込んでいってください。

なお、演習をより効果的なものとするために、テキスト「豊かな表現力を身につけるプレゼンテーション技法」自体には演習の記載がありません。テキストと併用しながら、柔軟に授業を展開していってください。

株式会社ウイネット プレゼンテーション学研究会

## <本書の構成>

### 第1部 本学習の意義と本書の使い方

I. 本学習の目的とテキストとの関係	
I-1. 本学習の目的	3
I-2. テキストの位置付け	3
I-3. ワークショップの構成	4
I-4. 各演習と訓練できるコミュニケーションスキル	5
II. 本書の使い方	
II-1. 各ワークショップの説明	6
II-2. ワークショップ時間に関して	7
II-3. ワークショップの使用順序、選択に関して	7
III. テキスト第1章の取り扱い	
III-1. ワークショップとは	10
III-2. 第1章の解説のタイミング	11

### 第2部 各ワークショップの説明

1. 何から始めたらいいの?	12
2. きちんと自分(たち)の意見を主張できますか?	16
3. 詩を朗読してみよう	20
4. 1枚の紙切れが舞台をつくる	22
5. 友だちへのアドバイス	26
6. 人気商品を大人気商品に進化させよう	29
7. ビジネスパーソンに期待される能力	32
8. 父の成功確率	39
9. 短歌を読んでみよう	42
10. SOS! 冷静に対処せよ!!	44
11. 平成の歌姫を決めろ	49
12. 時事問題	54
13. 報告ゲーム	57
14. マイドリーム15	60
15. 我が校を紹介しよう	64

ワークショップツール (学生用配布資料)

# 第1部 本学習の意義と本書の使い方

## I. 本学習の目的とテキストとの関係

### I—1. 本学習の目的

本学習は、コミュニケーション能力を向上させるために開発された「自分を大きく見せる話し方 コミュニケーション技法」(以下、略して「コミュニケーション技法テキスト」)での学びを補完・強化するために、多種多様なコミュニケーション、プレゼンテーションシーン場面を“ワークショップ”形式で体験できる構成としている。

「コミュニケーション技法テキスト」では、コミュニケーションの必要性や基本・基礎を体系的に理解してもらうことに比重を置き、演習も基本的なものを中心に展開してきたが、「豊かな表現力を身につける プレゼンテーション技法」(以下、略して「プレゼンテーション技法テキスト」)では、基礎から応用まで、個人からグループ活動までと、さまざまな局面を体験できるように数多くの実習を収録してある。

コミュニケーションもプレゼンテーションも「技法」と考えれば、その技術や能力の向上に当たっては機会(場)を多く与え、体験の中から学び習得させることが必要である。そうした要請に基づき、「プレゼンテーション技法テキスト」は、「コミュニケーション技法テキスト」の応用編の位置づけとして開発された。

本学習により、学生に対して「コミュニケーション技法テキスト」で学んだことを再確認させるとともに、しっかりとしたコミュニケーション(プレゼンテーション)技法の習得と定着を図ることが求められる。

なお、学習効果を高めるために以下のような試みを意識して行ってほしい。

- ①授業として取り組むだけでなく、日頃のクラス活動や話し合いの場でも学習内容やコミュニケーション(プレゼンテーション)技法を意識させる。
- ②本書(指導のてびき)と「プレゼンテーション技法テキスト」だけでなく、「コミュニケーション技法テキスト」も必要に応じて使用し、繰り返し必要性を動機付けるとともに、基本・基礎の確認を行う。

### I—2. テキストの位置付け

(1)メインはあくまでも「ワークショップ」(実習)である。ワークショップを1つのきっかけとして、プレゼンテーション or コミュニケーションする機会を数多く提供し(強制的に創り出し)、学生が自分の考えや意見をグループやクラス全体に発表(主張)することを通じて、コミュニケーションへの気付き、スキルアップのための練習を繰り返し行うことが本教材の目標・目的となる。

(2)「プレゼンテーション技法テキスト」は、ワークショップを行うに当たって、基礎知識・技術、考え方を教えるためのものであり、また、ワークショップ後の基礎知識・技術、考え方などの定着を図るために使用するものという位置付けで構成されている。

(3)「プレゼンテーション技法テキスト」は、1 ページ目から順次使用する必要はなく、教師が授業で実施するワークショップに応じて、適宜、テキスト該当箇所を選択できる。また、自クラスの強み・弱み学生相互のコミュニケーション促進状況などに合わせて選択できる。

すべてのワークショップを行うことにとらわれることなく、クラスの状況や実施時期（検定後のクールダウン、就職実務と絡めて、「コミュニケーション技法」授業前後の補強・補完など）に応じてフレキシブルに対応することが望ましい。

(4)「プレゼンテーション技法テキスト」は、プレゼンテーション学応用編に位置付けられており、基礎編「コミュニケーション技法テキスト」との記述の重複は極力避けている。

本書（指導のてびき）には「コミュニケーション技法テキスト」の該当ページ（または「章」）が示してあるので、両テキストの併用が望ましい。

常に「コミュニケーション技法テキスト」で学んだことを、再確認（スキル・知識・意識の定着と活用度合）しながら学習を進めていくことが、より効果的といえる。

(5)「プレゼンテーション技法テキスト」中に3カ所、トレーニング課題を収録している。

P. 85 文章を数表にする、グラフ化する

P. 89 箇条書きの練習

P. 99 事実と意見を区別して伝える

時間的に余裕があるとき、またはワークショップの成果がおもわしくない場合などに活用する。

### I—3. ワークショップの構成

15のワークショップから成り、主に以下のようなパターンが用意されている。

①「自己の考え・アイデアをまとめる(個人研究)」－「グループ内へ表明する」－「グループ内で個人の意見・アイデアをグルーピングする」－「出たアイデアについて発想の転換ができないかを個人で考える」－「グループ内で検討する」もの。

②「自己の考え・意見や価値観をまとめる(個人研究)」－「グループ内へ表明する」－「グループ内でコミュニケーションを図りながら問題解決に取り組む」－「(代表者 or 交代で、個人で)発表する」もの。

③「自己の考え・意見や価値観をまとめる(個人研究)」－「グループ内やクラス全体へ意見や価値観を表明する(口頭で、または模造紙などプレゼンテーションツールを使用して発表する)」もの。

④「ロールプレイング」「朗読」などを通じて、声に出し、役割を演じたりしながら、表現力や感受性の訓練なども行うもの。

以下に、概略ではあるが、活動テーマ、種類、プレゼン形式などを整理しておく。

#### I—4. 各演習と訓練できるコミュニケーションスキル

演習名	テーマ	グループ活動	個人研究	プレゼン形式	個人主張	事実の伝達論理性	傾聴	該当ページ
何から始めたらいいの?	課題解決	情報交流	△	個人	◎		◎	12
きちんと自分(たち)の意見を主張できますか?	集団内主張	討議	◎	個人	◎			16
詩を朗読してみよう	感情表現	意見交換	◎	個人	◎			20
1枚の紙切れが舞台をつくる	演じる	ロールプレイ	△	個人		◎		22
友だちへのアドバイス	集団内主張	クラス討議	◎	◎代表	◎	◎	◎	26
人気商品を大人気商品に進化させよう	課題解決	情報交流	◎	個人		◎	◎	29
ビジネスパーソンに期待される能力	集団内主張	討議	◎		◎	◎	◎	32
父の成功確率	集団内主張	ディベート	◎	代表	◎			39
短歌を読んでみよう	感情表現	意見交換	◎	個人	◎			42
SOS! 冷静に対処せよ!!	集団内主張	討議	◎	分担	◎	◎	◎	44
平成の歌姫を決めろ	課題解決	討議	◎	分担	◎	◎	◎	49
時事問題	論理的主張	討議	◎	個人	◎	◎	◎	54
報告ゲーム	報告表現	相互	◎	個人		◎		57
マイドリーム15	プレゼン	—	◎	個人	◎			60
我が校を紹介しよう	プレゼン	—	◎	個人	◎	◎		64

## II. 本書の使い方

### II-1. 各ワークショップの説明

#### (1) 各ワークショップ説明の構成

##### ①ワークショップの概要

##### ②ワークショップの目的

##### ③用意するツール

(備品類を含む)

##### ④会場設定ほか

##### ⑤ワークショップ時間の目安

あくまでも演習の標準時間を示している。省略、延長も可能な場合もあるので、作業時間などに合わせて調整する。

##### ⑥ワークショップの進め方

###### (1) 導入

###### (2) 演習

###### (3) 振り返り

演習ガイダンスや進め方、教師の振り返り時のコメント例などを提示してある。

同様のコメントをしても構わないが、身近な事例などを盛り込んでクラスごとに工夫することが望ましい。

#### (2) ワークショップシートに関して

本書(指導のてびき)後半に、実際にワークショップで使用するシートや振り返りシート、チェックシートなどが「ワークショップツール」として収録されている。

多くのワークショップシートは、「用意するツール」の指示に従い、シートを、人数分もしくはグループ数分、印刷(コピー)して使用する。

ただし、以下のワークショップのツールに関しては、事前にツール類の作成作業が発生する。

##### ①「カード」を用意するワークショップ

###### ●1枚の紙切れが舞台をつくる

###### 【カードの作成】

- ワークショップツールの各種カードを必要数分コピーする
- 各種カードを1枚ずつ切り離す
- A グループの封筒と B グループの封筒を用意し、封筒に必要数分ずつ輪ゴムなどでまとめて分けて入れておく。

##### ②テーマ、タイミングによって教師が個々に新聞記事を用意するワークショップ

###### ●時事問題

(※本文指示を参照のこと)

## Ⅱ—2. ワークショップ時間に関して

### (1) 予備の時間を用意するワークショップ

前述のように本書（指導のてびき）の各ワークショップの説明には、「標準時間」が記載されているが、討議形式のものは当初設定した時間内に結論に至らない場合が予想される。従って、多くのワークショップで予備時間を設けておくことが望ましい。

### (2) 数回（数日）に分けて実施するワークショップ

収録してあるワークショップの大半が、1回で完結するものだが、下記のワークショップに関しては、情報収集やプレゼンテーションツールの作成などの関係で、数回（数日）に分けて実施することが望ましい。

- 平成の歌姫を決めろ
- マイドリーム15
- 我が校を紹介しよう

## Ⅱ—3. ワークショップの使用順序、選択に関して

本書（指導のてびき）に収録している15のワークショップは、内容の違いはもちろん、訓練をするコミュニケーション（プレゼンテーション）スキルや得られる効果が微妙に異なっている。従って、できるだけすべてのワークショップを実施することが望ましい。しかし、各ワークショップとも演習時間が多く取られること、および他授業の関係などからすべてを実施することができない場合も考えられる。

その際は、以下の使用順序を参考のうえ、強化したいコミュニケーション（プレゼンテーション）スキルに応じて選択してもらいたい。

### (1) 標準の使用順序—フルコース

簡単で楽しいものから、論理的、より個人のコミュニケーション（プレゼンテーション）スキルの巧拙がわかるものへ、繰り返し変化をつけながら実施できるコース（以下、①②③…の順で実施することが望ましい）。

- ①何から始めたらいいの？
- ②きちんと自分（たち）の意見を主張できますか？
- ③詩を朗読してみよう
- ④1枚の紙切れが舞台をつくる
- ⑤友だちへのアドバイス
- ⑥人気商品を大人気商品に進化させよう
- ⑦ビジネスパーソンに期待される能力
- ⑧父の成功確率
- ⑨短歌を読んでみよう
- ⑩SOS！冷静に対処せよ！！



- ⑪平成の歌姫を決めろ
- ⑫時事問題
- ⑬報告ゲーム
- ⑭マイドリーム15
- ⑮我が校を紹介しよう

## (2) ショートカットコース

目標としている習得すべきコミュニケーション(プレゼンテーション)スキルを最低1つ、実施するコース。

- ①何から始めたらいいの？
- ②きちんと自分(たち)の意見を主張できますか？(or ビジネスパーソンに期待される能力 or SOS! 冷静に対処せよ!!)
- ③詩を朗読してみよう(or 短歌を読んでもみよう)
- ④1枚の紙切れが舞台をつくる
- ⑤友だちへのアドバイス(or 父の成功確率)
- ⑥平成の歌姫を決めろ
- ⑦時事問題
- ⑧報告ゲーム
- ⑨我が校を紹介しよう(or マイドリーム15)

## (3) グループワーク主体コース

プレゼンテーションや発表は、他の科目で取り組んでいるので、集団の中のコミュニケーションを中心に行いたい場合。

- ①何から始めたらいいの？
- ②きちんと自分(たち)の意見を主張できますか？
- ③1枚の紙切れが舞台をつくる
- ④人気商品を大人気商品に進化させよう
- ⑤ビジネスパーソンに期待される能力
- ⑥父の成功確率
- ⑦SOS! 冷静に対処せよ!!
- ⑧時事問題

## (4) 個人ワーク主体コース

主に個人でのプレゼンテーションを中心に行いたい場合。

- ①詩を朗読してみよう
- ②短歌を読んでもみよう

- ③平成の歌姫を決めろ
- ④報告ゲーム
- ⑤マイドリーム15
- ⑥我が校を紹介しよう

なお、各ワークショップを適宜、“つまみ食い”的に授業で実施することは構わないが、その際には前後で必ずテキストの解説を加えるようにしてほしい。

### Ⅲ. テキスト第1章の取り扱い

#### Ⅲ-1. ワークショップとは

ワークショップとは、メンバーが積極的にチーム活動に参加し協力し合い、それぞれの知識、経験、専門分野、価値観などを最大限に活用することで、通常一人では解決するのが難しい事柄を、より完成度の高い結果に結び付けようとする活動全体を指します。

基本的にはチームで行うものが中心ですが、ここでは一人で行う活動も含めてワークショップと呼びます。それは、一人で行うものも、クラスやチーム全体で関わっていけるように構成されているからです。

(「プレゼンテーション技法テキスト」第1章より)

ここで“ワークショップ”と呼んでいるものは、個人・グループでの活動にかかわらず、話し合い、実習、グループ討議・ディスカッション、発表・プレゼンテーションなどの総称を示している。

ここではワークショップという形式を便宜上とっているが、実際には「学校内や、就職してから企業(組織)内で『日々行う活動』を体験的に学び、『生きる力』『いつ、どこでも発揮できるコミュニケーション(プレゼンテーション)スキル』の強化を図るもの」ととらえている。

#### 第1章 ワークショップで学ぶためのルール

##### I. ワークショップで学ぶためのルール

- I-1. ワークショップとは
- I-2. ワークショップのルール
- I-3. ワークショップでの個人の権利(義務)
- I-4. ワークショップ活動での基本姿勢
- I-5. ワークショップで行う主な活動

上記の「ワークショップ」という言葉を、意識的に「日々の生活」「人間関係」「コミュニケーション」と置き換えて説明するくらいの指導をしていただきたい。

## Ⅲ—2. 第1章の解説のタイミング

ワークショップを楽しく、また実りあるものにしていくためには、第1章の解説を十分にいき、学生の参画度を高めることが必要条件といえる。

第1章の説明のタイミングは、以下の併用で行うことが望ましい。

### (1) 授業の第1回目に時間をとる

ワークショップは実施しないで、第1回目の授業で解説のみ行う。

### (2) 第1回目のワークショップの前に行く

第1回目のワークショップ実施に当たって、その前フリとして解説する。

### (3) 各ワークショップの前に行く

(1)の第1回目の授業で説明した後は、適宜、学生の状況を見て行う。

I-2. ワークショップのルール P. 6

I-3. ワークショップでの個人の権利(義務) P. 8

特に、上記2つについては、できていない場合が多いと予想されるので、気が付いたときに適宜確認することが望ましい。

### (4) 各ワークショップの後に行く

各回のワークショップでの学生の取り組みを見て、参画度が低いときなどは、

I-3. ワークショップでの個人の権利(義務) P. 8

I-4. ワークショップ活動の基本姿勢 P. 9

の部分繰り返し確認しておく。

## ※ 第6章 論理的思考の基礎

### VI. 論理的思考・表現の訓練

VI-1. 最適な訓練技法ディベート P. 118~128

当該箇所に対応するワークショップはない。この部分は、ディベートを実際に行う際の進め方のマニュアルになっており、究極のプレゼンテーションと呼ばれるディベートを実施するときの参考として収録してある。

## ■■ 演習11「平成の歌姫を決めろ」■■

### 1. ワークショップの概要

チーム対抗のディベート風プレゼンテーション大会。平成にデビューした女性アーティスト(安室奈美恵、MISIA、浜崎あゆみ、AKB48などグループも可)の中で誰が現時点でナンバーワン歌姫かを決定する。興味・関心のある女性アーティストを対象に、そのアーティストがいかにすばらしいかを論理的に裏付けるために、情報収集からプレゼンテーションまでを工夫して行うもの。決定方法としては、プレゼンテーション力、論理性(データなどの裏付け)などで総合的に審査する。

### 2. ワークショップの目的

- ・論理的な思考を学ぶ。感覚や感情、好き嫌いといった曖昧なものではなく、事実・データ(CD売上枚数、オリコンランキング、好感度調査、受賞タイトル数など)に基づいて主張を展開する練習の場とする。
- ・インターネットや本屋などでの情報収集の訓練。
- ・ビジュアルプレゼンテーションの工夫、発表資料の工夫など実習を通じて学んでいく。

### 3. 用意するツール

- |               |           |
|---------------|-----------|
| ①指示書(第1回)     | 人数分       |
| ②ワークシート1      | 人数分       |
| ③指示書(第2回)     | 人数分       |
| ④ワークシート2      | 人数分       |
| ⑤プレゼンテーション判定表 | グループ数×人数分 |
| ⑥プレゼンテーションツール |           |
- 模造紙、マジック、セロテープ・ガムテープ、マグネット、  
必要に応じてビデオカメラなど また学生が自由に持ち込むもの

### 4. 会場設定ほか

- ①前半の作業時間では、教室形式からグループ形式へ変更する。  
グループ作業に関しては、模造紙記入などの作業スペースを確保する。
- ②発表(プレゼンテーション)では、プレゼンテーションツールを貼る場所が必要。ビデオ収録・再生をする場合には、その機材などの設置場所、画面の引きなどの余裕も必要。

**豊かな表現力を身につける プレゼンテーション技法 指導のてびき**

---

発行日／平成15年2月25日 第1版 第1刷

平成29年3月7日 第4版 第1刷

編 著／株式会社ウイネット プレゼンテーション学研究会

発 行／株式会社ウイネット

〒950-0901 新潟市中央区弁天3-2-20 弁天501ビル5F

<http://wenet.co.jp>

印刷所／株式会社第一印刷所

---

© WENet 2003, 2017

Printed in Japan

- 本書に関するご質問は、電子メール（[info@wenet-inc.com](mailto:info@wenet-inc.com)）にてお送りください。  
なお、ご質問の内容によってはご返答に日数がかかること、また、本書の範囲を超えるご質問につきましてもお答えできないことを、あらかじめご了承ください。
- 本書は著作権法上の保護を受けています。  
本書の全部あるいは一部について、株式会社ウイネットから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。  
無断複製、転載は損害賠償、著作権法の罰則の対象になることがあります。
- 落丁・乱丁本はお取替えいたします。